MAKE ACTION

身近なところから語り合って

原発ゼロ 自然エネルギーへ転換を!

7・30 大阪府民集会に3000人

子どもたちに安全、安心な社会を手渡すために、新しい府民運動が始まりました。「原発なくし、自然エネルギーへの転換を求める7・30大阪府民大集会」が7月30日、大阪市内で開かれ、労働組合・市民団体など約3000人が参加。色とりどりの横断幕やデコレーション、プラカードをかかげて市内をパレードしました。主催は、幅広い個人や団体でつくる「原発ゼロの会・準備会」。原発問題について身近なところから語り合い、原発からの撤退、自然エネルギーへの転換を求めて、政府、自治体、電力会社に働きかけていきます。

福島県の出身で、9ヶ月の子どもを育てる新日本婦人の会の渡部さつきさんは、「きれいな故郷を取り戻すため、原発をなくすまでがんばりたい」と涙ながらに訴えました。（写真中央）

おおさか自治体の仲間　発行：大阪自治労連（大阪自治体労働組合総連合）　2011年8月15日　No.271

〒530－0041　大阪市北区天神橋1－13－15大阪グリーン会館4F　☎06－6354－7201　FAX06－6354－7206
E-mail:mado@osaka-jichiroren.jp
URL:http://www.osaka-jichiroren.jp

発行人／前田　仁美　編集人／久保　貴裕
毎月15日発行（1部10円）組合員の購読料は組合費に含まれています。

趣味は音楽バンド。ライブ演奏にも出かけ、曲もつくります

守口市職労 職員支部指導員分会 執行委員

渡司（わたし）　考博（たかひろ）さん（学童保育指導員）

学童保育指導員を、人生をかけて働ける仕事にしたい

一時金条例化で均等待遇へ前進

昨年12月、学童保育指導員をはじめ、守口市で働く非常勤職員の一時金を条例で制度化させました。実現に向けた闘いを後押ししたのが、昨年9月の枚方市非常勤裁判の全面勝利判決です。「本当に、やったー！という気持ちでした。正規職員と同じ仕事をしているなら権利も賃金も同じにすべきだ、と主張してきたことが、ついに公の場で認められたんですからね」

団体交渉では、パート保育士、国保徴収員など100人を超える非正規の仲間とともに人事当局を追及しました。「いまの賃金では働き続けられるのか心配…」「あと何年で『雇い止め』という感じでしたから」

自分もいつしか「子どもに関わる仕事がしたい」と思うようになり、福祉の専門学校を出て8年前から学童保育の指導員に。「子どもの反応がすぐに返ってくるのが面白くて、仕事はとってもやりがいがあります。でも今の賃金では自立した生活ができません。自分もこれから先、結婚して自立した生活ができるのか、正直言って不安があります」。働き続けられずに途中で仕事を辞めていく指導員も少なくありません。

オリジナルTシャツには、「私たちの仕事を知ってますか？　うちらは指導員、守口シティ」の文字が

渡司さんが勤める市立梶小学校

「学童保育指導員を専門職として社会に認めさせ、人生をかけて働ける仕事にしていかなければ。子どもたちが、将来何になりたいか聞かれたとき、『学童保育の指導員になりたい！』と答える子がでてくるような、そんな社会にしていきたいですね」と言われたら、働く意欲までなくなってしまう」。苦しい生活の実情を明かし、涙ながらに訴える指導員もいました。「一時金は実現しても、退職金や経験年数加算はこれからです。要求を実現するために、一人ひとりの仲間が組合に集まって、みんなで立ち向かっていきたいです」

子どもの時憧れだった指導員

小学生時代、大阪市の旭区で「学童っ子」だった渡司さん。「指導員は憧れの人でした。けん玉や、コマ回しもすごくうまくて、話のわかる兄ちゃん、と